

OPEN HUB | for Smart World



OPEN HUB Base

ANNUAL REPORT #01 2023-2024

## OPEN HUB Base

ANNUAL REPORT | #01 | 2023-2024

### アイデアの 共有から始まる、 越境的コミュニティー

最新の技術で人と社会をつないだ NTT コミュニケーションズが、これから社会の可能性とビジネスの創出を探求するコミュニティー「OPEN HUB Base」。私たちは人びとの描く理想の未来が多様化していることに着目し活動してきました。

2023 年にコミュニティーの会員数は 20,000 人の規模に拡大し、トークセッションやワークショップ、勉強会などのべ 117 の企画を実施。それらの活動を通して見えてきたのは、多面的な視点で社会を捉え、他の企業のノウハウやアセットを理解し、共感することがビジネス創出の糸口ではないかということです。

つながりから共創へ——本レポートで昨年の活動を振り返りながら、ビジネス共創という化学反応を引き起こすアイデアの発火点を探っていきます。

01 Interview: Co-Making New Value 業種の枠を超えて広がる人の輪 生まれる価値	04
02 Interview: Co-Creation Drives Innovation コミュニティーを起点に加速する組織と事業のイノベーション —	08
03 OPEN HUB Base by the Numbers 数字で見る OPEN HUB Base	12
04 Activity Report 2023 活動ハイライト	14
05 From OPEN HUB Base Office 事務局からのメッセージ	18
Vision for the Next Year 自然と共創が生まれる土壤づくりに向けて	19

# Co-Making New Value

業種の枠を超えて  
広がる人の輪  
生まれる価値

企業を超えて社会課題を解決しようと  
OPEN HUB Baseに集う3人の会員。  
彼らが数あるコミュニティーの中から  
ここを選び、通い続ける理由とは？



## 好奇心と探求心を かきたてる場所

新川：きっかけは MWC2023 のレポート

業を立ち上げることにはハードルを感じ  
てしまいます。だから、こうして皆さんと  
孤独をテーマに一步踏み込んだ議論がで  
きたのはありがたかったです。

灘地：私は純粋に業務におけるインプ  
ットのためにでしたね。初めて参加したのは  
「メタバース」をテーマにした DIALOG  
でした。ちょうどメタバース関連の新規事  
業を立ち上げようとしていたこともあって  
「同じ関心を持つ他社がどこに目を向けて  
いるのか」「その道のプロフェッショナル  
は何を考えているのか」を知っておきたい  
なと思ったのです。

福嶋：アクションを起こす前のインプット  
に活用いただいたということですね。灘地さん  
は、現在の部署に異動される前は  
社内の経理を担当されていたそうです。  
求められる職務とは別に、自ら社内イノ  
ベーションを起こそうと取り組まれてい  
る姿が印象的でした。いまでは OPEN  
HUB 「BASE Pitch」<sup>※</sup>を通して事業の仲  
間集めまでされていて、まさに共創の場  
を活用していますね。

## だから「また来よう」 と思える

灘地：共創の実現に欠かせないのは  
結局「人」ではないでしょうか。まず  
誰と仕事をするのか、したいのか。OPEN  
HUB Base に集まるのは何かしら目標や



三菱電機ビルソリューションズ  
新川岳史

事業企画部。エレベーター機器やシス  
テム開発、米国開発拠点の立ち上げ後、  
2020 年からビル周りの新事業・サービス  
開発などのプロジェクトに従事。



オカムラ  
灘地 将

DX 戦略部。営業、社内監査、経理など  
複数部門の経験を経て、2023 年より先  
進テクノロジー共創担当として、ボトムアッ  
プ型の DX 推進に携わる。



日本電気  
芦田ひかり

次世代ネットワーク戦略統括部。ローカ  
ル 5G や 2030 年代ネットワークに向けた  
事業検討を経験。5G・6G、IOWN 分野  
の共創活動を推進中。



NTT Com  
福嶋 麻由佳

CATALYST として会員間の交流をナビ  
ゲートするほか、2023 年 4 月には OPEN  
HUB RADIO を自ら企画し、パーソナリ  
ティを務める。





情熱を持った人たちです。また、そのハブになる NTT Com にはさまざまなノウハウやアセットがあり、福嶋さんのような理解あるコーディネーターが事あるごとにサポートしてくれます。OPEN HUB Baseだからこそ人のつながりは魅力的だと思いますね。

新川：灘地さんのお話には私もすごく共感します。波長の合う話しやすい人がいるから、誰かを連れてきたいって自然に思えます。さまざまな企業との交流は上質なインプットになりますし、何より OPEN HUB Base の生み出す力は体験してこそ感じることができるので。

福嶋：新川さんは本当に社内外からたくさんの人を連れてきてくれます。その体験価値はどんなところで実感しますか？

新川：やはり DIALOG でしょうか。連続したワークショップなので、参加者の人となりはもちろん、どんなアイデアやビジョンを持っているか、いま社内でどんな事

業に取り組んでいるかにまで話が及びます。1回限りのワークショップだと自然消滅しがちな関係も、2回3回と顔を合わせると仲が深まりますよね。そういうワークショップデザインが密度のある人のつながりとアイデアの交流を生み出していく、共創の可能性を感じます。

芦田：ここに集まる人は NTT Com の方々含めオープンマインドで、場の雰囲気に安心感を覚えます。それが継続的に参加したくなる大きな要因の1つです。それと CATALYST の皆さんとの見識には毎回驚かされますね。プロフェッショナルの伴走は本当に頼もしく、活発に意見交換できるのは素晴らしいと思います。

### 共創に必要な「すべて」がそろっている

福嶋：会員の皆さんとビジネスの話からプライベートな話まで、さまざまな話題が

飛び交うのは OPEN HUB Base ならではの光景です。似たようなコミュニティは他にもあるのかもしれません、ここに価値はやはり集まっている人の質にあると思います。参加者の多くは社内では少数派でも、意志と根気を持って旗を振り続けている方々です。だからこそ波長が合う。直感的に引かれ合うというか。各々の目指すビジョンが似ているので、おのずと協力しながら先へ先へと進んでいく力が生まれますね。

灘地：これは持論ですが、新しいビジネスを始めるとき、企業には4種の人材が必要だと思っています。「スペシャリスト」「熱意ある若手」「理解ある上司」「社内を横につなぐ人」。この4つがそろわないと新規事業の成立は難しい。チャレンジする意識を抑圧する風土は言うまでもなく、外部からスペシャリストだけ呼んでも部署間の連携がとれなければ何事もうまくいきません。

福嶋：OPEN HUB Base に集まる人たちは、このうち1つ以上には必ず当てはまっている気がしますね。企業として、人材として、皆さんそれぞれ何らかのスペシャリティは持っていますし、新川さんのように社内外問わず多くの方々をつなぐ橋渡し役もあります。

新川：自分自身は熱意ある若手のつもりでやっているんですけどね（笑）。

灘地：OPEN HUB Base ってイベントの後に必ずネットワーキングの時間をとりますよね。それがすごく良いなと思っていて。そこで名刺を交換して話した方と新規ビジネスを始めた経験もあります。

福嶋：私は「この人をつないだら面白い化学反応が生まれそうだな」と思って、参加者同士の会話をアレンジしています。会員の皆さんに持っているアセットや強みを知る私たちだからこそ、何かの機会につなげられたらと思っています。

新川：実際、社外セミナーにはいくつか

参加してきましたが、多くの場合、宣伝色が見えて期待値が下がってしまいます。最後の最後で、やっぱり営業をかけられる。しょうがないことだとわかっていますが、OPEN HUB Base にはそれが全然なくて、逆に大丈夫かなと心配に思うくらい（笑）。よく言えば、それが NTT グループの強みだということですね。主催者が押し売りをしてこない感じはこちらも参加しやすいですし、自分から何か貢献したいという気持ちにさせてくれるかもしれませんね。

### これからの OPEN HUB Base をより良くするアイデア

灘地：ネットワーキングの機会と時間がもっともっと増えると、より有意義なコミュニケーションに成長していくと思います。以前、交流会である方の提案で参加者全員の自己紹介をしました。すると「あの会社の、あの部署の人だ」とか色々なことがわかりました。ネットワーキングの時間に参加者全員と話すのは難しくても、「話しかけてみよう」と思える人をあらかじめロックオンできるのは良いなど。さまざまな業種や技術、アセット

が豊富に集まっているのが OPEN HUB Base の良いところです。コミュニティ内の横のつながりがより活発になれば、いっそう共創の可能性が広がりそうです。あるいは、多目的なコワーキングスペースがあると参加者のコミュニケーションがより軽快かつ濃密になるかもしれません。

芦田：ワークショップで生まれたアイデアをちょっと作って試せるようになると良いですね。弊社もそうですが、アイデアの実証に必要な技術的環境を持つている企業はいくつもあります。リアルな実験場を持つ企業と面白いアイデアを持つ企業が、短期間でも小さなトライ＆エラーができると有意義ですよね。その経験がフィードバックされることでアイデアがより現実味を帯びると思います。そんな実験場としての共創機会が増えたらうれしいですね。

新川：孤独や当たり前を脱却するというテーマは魅力的でした。テクノロジーやトレンドにフォーカスする回も良いけど、多くの企業が業種の垣根を超えて取り組むべき社会課題がテーマだと議論が活発になって良いですね。

福嶋：すごく良いアイデアです！ さっそくフィードバックしたいと思います。これからもみんなでより良いコミュニティに育てていきたいですね。

OPEN HUB「BASE Pitch」  
アイデアやビジョンを共有しプラッシュアップする交流会



#### Sharing Inside Stories

### 声に未来を乗せて 発信するラジオ番組 「OPEN HUB RADIO」

2023年4月からスタートした「OPEN HUB RADIO」。CATALYST の福嶋がパーソナリティを務め、イベント登壇者や会員の方と共に、さまざまなテーマでトークを繰り広げます。NTT Com の最新技術やアセットの紹介はもちろん、イベント本編の裏話や参加した会員のリアルな声など、ここでしか聴けない情報が満載です。Apple Podcasts や Spotify からどなたでもお聞きいただけます。

#### OPEN HUB RADIOはこちらから



Apple Podcasts



Spotify



#### Business Generated by Conversation

### 業種を超えて紡いだ会話が ビジネスの種になる 「DIALOG」シリーズ

トレンドを押されたテーマで勉強会やワークショップを開催しています。なかでも対話型のシリーズ企画「DIALOG」では、有識者からのインプットと参加者同士のアウトプットを繰り返し、ビジネスアイデアを探求します。個人や企業内では視野が狭まりがちな議論も組織の枠を超えて語り合えば、思いもしない発想が生まれます。さまざまな専門家と共にビジネスアイデアを具現化していく、そんな体験ができる場です。

#### 過去に取り上げたテーマ

##### 孤独

暮らしや社会に密接に関わる「孤独」について全4回のリアルイベントを開催しました。

##### メタバース

仮想現実の世界に未来はあるのか。実用化に向けた「メタバース」の進化について議論しました。

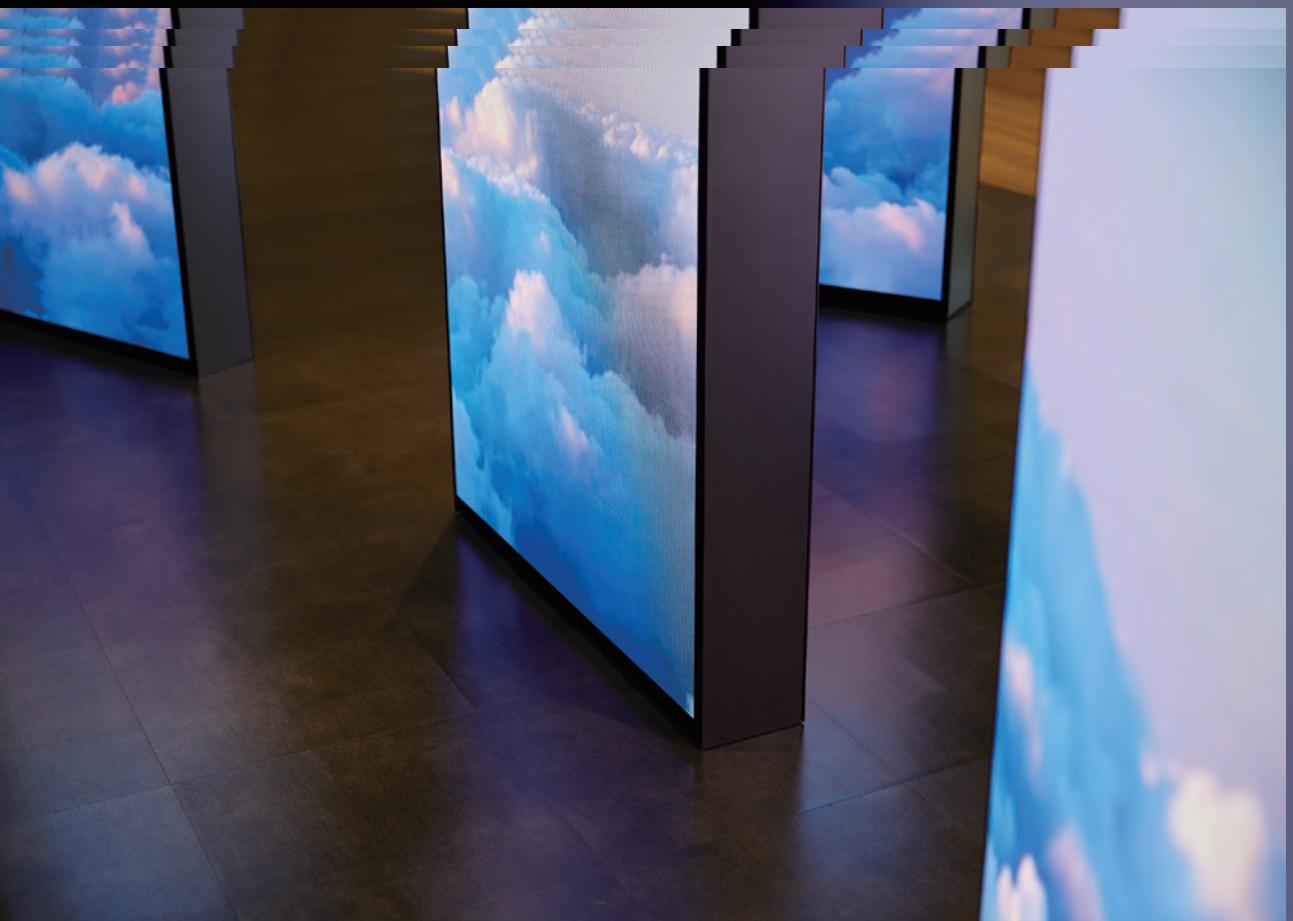
##### ロボティクス

「ロボットと人との共生」をテーマに、現代社会が抱える障壁と課題を深掘りました。



ときどき自分のフィールドを「丘」の上から見渡してみる。

そこで初めて気づく新しい価値がある。



## Co-Creation Drives Innovation

### コミュニティーを起点に加速する組織と事業のイノベーション

新たに事業を切り開くには「遠いところに行ってみる経験」が重要だと語るJAFの廣野芳紀氏。会社の一歩外に出て共創に参加する価値とは?



日本自動車連盟  
廣野芳紀

JAF 理事、DX 推進本部長。2020 年から DX 人材育成、組織変革、最新 IT 技術の研究・導入や事業のイノベーションを担当。



NTT Com  
柴田知昭

大企業同士の共創コミュニティー立ち上げ後、現在はウェビナー、ワークショップなどのイベントやメディア発信など OPEN HUB の運営全般に従事。



### 「正解のない問い」を突き詰めた先に

廣野：JAF（日本自動車連盟）は 2,000 万人の会員を有する一般社団法人です。一般的にはロードサービスのイメージが強く、そこにはのみポテンシャルがあるように思われがちですが、それは一側面に過ぎません。私たちのビジョンは、車の素晴らしさを共有し、生活を彩る豊かな車社会を実現することにあります。その基本に立ち返るべく、2018 年頃からは顧客体験の向上を全社的に目指すようになりました。

それはつまり顧客データを使ってニーズを把握し、先読みしてサービスを提供する、データドリブンのビジネスです。レガシーシステムの更新に併せて DX を推進しました。しかし 2 年をかけてもイノベーションやアイデアといった成果が出てこなかった。その原因を突き詰めていくと、「ちょっといいですか」と気軽に話せる場がないことに気づきました。

従来の Web 会議サービスは打ち合わせに適したツールではありますが、日頃の些細な問題や課題、雑感を気軽に話せるものではありません。こうしたコミュニケーションを補う場として、目をつけたのがメタバースでした。実際に社内でメタバース空間をつくり業務に実装してみたものの、社内では不評を買いつけていたスタッフたちも正しいことをやっているのかと不

安でした。とはいっても、まだ先進的なテクノロジーの活用について調べても答えがみつからない。さあ、どうしようといったところで OPEN HUB Base に出合ったのです。

### 10 年後の未来を開くための「探索」

柴田：初めて参加したイベントは何でしたか？

廣野：「メタバース」をテーマにした「DIALOG」でした。そのとき「IOWN」のビジョンが紹介され、2030 年に IOWN による 12K 解像度が社会実装されると、そのメタバースが実現すると。現在の評価は一定ではありませんが、これからメタバースはさらに進化し社会実装のフェーズに入っていく。自分たちの取組みは間違っていないと期待と確信を持つことができました。私たちがメタバースによってできることは何か、あと 10 年をかけてワクワクしながらその答えを見つけていきます。

柴田：社員のコミュニケーションの活性化、それを軸にしたビジネスの展開を目指されているわけですね。

廣野：私たちは「JAF IT アカデミー」というメタバース上のオープンユニバーシティを主催しています。自社の社員はもちろん 50 以上の企業の皆さんに参加をいただいている。でも、バーチャルだけでは物足りない部分もあり、リアルな場も必要だと感じます。OPEN HUB Base の魅力は、



## 「自縛」を 解くカギは相対化

**柴田：**廣野さんがそこまで知の探索に前向きになれるのはなぜなのでしょう？ 管理職の中にはリスクを考慮し新しいことに消極的になりがちな方も少なくありません。

**廣野：**よく若い社員が「こんなこと JAF ではできませんよね」と口にするのを聽きます。それって「自縛」なのです。自社で新しいことを始めるのは無理だという呪いのような言葉です。理由を考えもせず「無理だ」と断じてしまう自縛は、いつしか挑戦や実験に消極的な会社の風土になっていきます。しかし、いま自分が懸命に耕している畠を「一度丘の上から見渡してみたらどうか」と社員に勧めるのです。すると、まだ全然耕していない場所があるじゃないかと気付ける。その「丘」こそが OPEN HUB Base だと思います。ここにきたら自分の仕事が相対

私たちの目指すバーチャルとリアルを融合したコミュニケーションを実現している点ですね。やはり顔を合わせるとより議論が深まります。また、一度きりのワークショップが多い中、OPEN HUB Base は複数回にわたって開催しています。コミュニティ形成は議論を深化する重要な要素だと思いました。

**柴田：**業種、年齢、社内での立場など違いを持ったビジネスパーソンが同じテーマや課題に取り組むことでたくさんのことが見えますよね。異なる観点から見えたものをフラットに共有すると気づきも多い。

**廣野：**今の自分から「遠いところ」に行ってみると、経験には非常に価値があると思うのです。私自身、1995 年にインターネットを使った新事業を提案したとき、社内からは大きな抵抗を受けました。そこでアメリ

力に行かせてもらい、実際にビジネスへの先進的な導入事例を目の当たりにしました。「これは 5 年後の日本だよ」と言われたことは今でも忘れません。OPEN HUB Base も同じです。それぞれの逆境を物ともせず、10 年後を信じて本気で取り組んでいる人



化できる。同じように自分の畠を見渡して悩んでいる人にも会える。それぞれの技術やアセットを持ち寄って、自分たちの仕事をワンステージ上に引き上げられる可能性だってあるのではないかでしょうか。

**柴田：**自社の仕事に真面目に取り組むからこそ「知の深化」があるわけですが、ビジネスはそれだけでは生まれません。自分たちの当たり前を疑わなければいけない。しかし、それがなかなかできない。そのブレイクスルーを可能にするのが知の探索ですね。

**廣野：**おっしゃる通りです。自縛は1人では解けませんし、むしろ社員という立場だと縛られている方が楽ともいえます。新たなアクションをしなくても生活できますから。しかし、それだとワクワクもないしドキドキもない。内向的になってしまいます。社内にもそういう空気がありました。いまは違います。変わったきっかけはやはり OPEN HUB Base に参加したことだったと思いますね。他社の方々と気軽に会話ができる、コミュニケーションの楽しさと意義がわかったのでしょう。いまでは自ら積極的に他社の方々とのミーティングやディスカッションに参加しています。

3 年目の現在、20,000 人を超えました。これまで運営メンバーを中心に企画を提案してきましたが、今後はコミュニティの中からそういったアイデアが生まれてくる状態を目指したいです。なおかつ既存のメンバーが外から人を連れてきて、顔の見える関係性が広がっていくといい。OPEN HUB Base が自走するコミュニティになっていくよう働きかけていきたいですね。そのためには参加のハードルを下げることも重要だと思っています。そういう意味では、今年開発したデジタルヒューマン「CONN」など自社アセットを手軽に使える機会や、著名なキーパーソンを呼んでインプットに徹するイベントがあってもいいでしょう。ほかにもブレインストーミングやディ

スカッション、あるいはテクノロジーの現場を皆さんで視察するのもいいかもしれません。最終的には参加者が自ら手をあげてアウトプットできるのが理想です。

**廣野：**人はアウトプットすることで成長します。自走するコミュニティには自律する個人が不可欠です。インプットからアウトプットまでが一連のシリーズになった DIALOG や、さらにその模様がアーカイブされ、メタバース上で参加企業の社員全員が見られる機会があるといいですね。リテラシーの涵養という面はもちろん、社内のトランスフォーメーションをいつそ加速する触媒にもなることを、1 人の会員としてこれから期待しています。



## 自走するコミュニティに 欠かせないもの

**柴田：**初年度約 3,500 人だった会員数は

### Who is the Digital Human「CONN」？

#### 個性を持った 唯一無二のデジタルヒューマン

東映ツーケン研究所と NTT の技術によって誕生した「CONN」。CG や AI 技術を使い、容姿や声、ふるまいなど、人間らしさを追求したデジタルヒューマンが誕生しました。OPEN HUB Park でのエントランス案内からプレゼンテーション、お客様とのインタラクティブな会話を実現。OPEN HUB の CATALYST として、これからも進化を続けていきます。

#### 活用パターン



##### 定型ガイド

シナリオ型での説明対応や、プレゼンテーション、FAQ 対応



##### 双方型コミュニケーション

言語生成 AI と連携した、自由なコミュニケーション



##### 3D リアルライブ配信

演者の動きと音声を CONN としてリアルタイムに配信

### Innovative Network Solution for 2030

#### 次世代ネットワーク基盤 「IOWN®」

スマートフォンや IoT 機器などの普及を背景に、情報をより高度に、かつ最適に処理する新たなネットワーク基盤の実現が急がれています。「IOWN」は、光を中心とした技術を応用した、次世代コミュニケーション基盤の構想です。これまでの便利さと、さらなる技術活用を支えるために、2030 年の構想実現に向けた研究開発・実用化に向けた取り組みが進められています。

#### IOWN®の特徴



##### 低消費電力

100 倍



##### 大容量・高品質

125 倍



##### 低遅延

1 / 200



# OPEN HUB

## Base by the Numbers

### 数字で見る OPEN HUB Base

2021年10月に発足した、企業同士の共創コミュニティ。会員や技術、それらをつなぐ企画や専門家を起点に、その広がりを見せ続けています。ここからどんな価値が生まれ、どのような進歩を遂げてきたのか。2023年のあゆみと成果をインフォグラフィックで紹介します。

## MEMBER

OVER  
**20,000**

### 企業規模

大企業	<b>64%</b>
中堅企業	<b>22%</b>
中小企業	<b>10%</b>

### 業種

製造／建築不動産	<b>41%</b>
サービス	<b>26%</b>
流通	<b>13%</b>
インフラ	<b>10%</b>
金融	<b>8%</b>

### 役職

経営層	<b>13%</b>
部長職	<b>38%</b>
課長職	<b>23%</b>
係長職	<b>14%</b>
一般職	<b>12%</b>



## READER

OVER  
**400,000**

### 企業規模

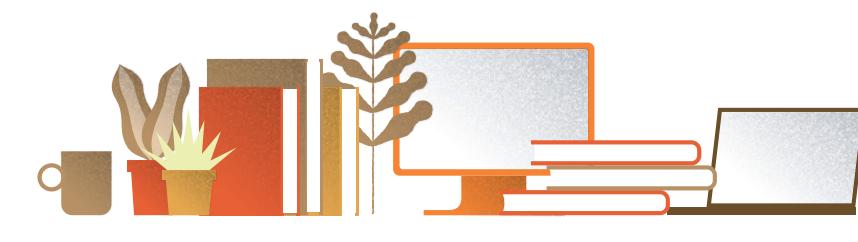
大企業	<b>35%</b>
中堅企業	<b>26%</b>
中小企業	<b>31%</b>

### 業種

サービス	<b>35%</b>
製造／建築不動産	<b>33%</b>
流通	<b>12%</b>
インフラ	<b>10%</b>
金融	<b>8%</b>

### 役職

経営層	<b>17%</b>
部長職	<b>26%</b>
課長職	<b>23%</b>
係長職	<b>22%</b>
一般職	<b>12%</b>



## CATALYST

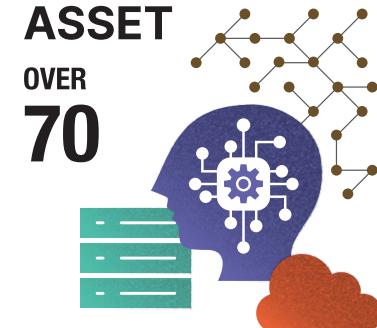
OVER  
**700**



ビジネスプロデューサー、データサイエンティスト、サービスコーディネーターなど、各分野に精通したNTT Com社内外の専門家は約700名。専門性を生かしてビジネス創造に貢献します。

## ASSET

OVER  
**70**



NTTグループのさまざまなアセットを共創の素材として提供しています。会員の皆さまの企業のアセットも募集中です。自社アセットも他社から見れば新たな価値があるかもしれません。

## VISITOR

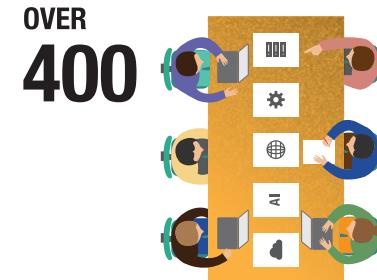
OVER  
**2,000 COMPANY**  
**4,500 PEOPLE**



東京・大手町のリアルスペース PARK を多くの方が訪ね、年々リピーターも増えています。今後さらにコンテンツをアップデートし、ビジネス共創の議論の場としての価値を高めていきます。

## PROJECT

OVER  
**400**



進行中のプロジェクトは現在400件以上。アイデア創出から社会実装に至るまでのプロセスを CATALYST がサポートします。実装済みのプロジェクト事例は JOURNAL でも発信しています。

## ISSUE

OVER  
**14**



世の中のトレンドとNTT Comのアセットを掛け合わせたテーマを特集として定期的に発信しています。1つの ISSUE を軸にイベントや記事など、多角的な切り口からインサイトを提供します。

## JOURNAL

OVER  
**200**



毎週2回、累計200以上の記事を配信しています。最新のトレンド・技術・企業事例に加え、有識者インタビューやOPEN HUBでの共創事例など、ビジネスアイデアのヒントをお届けします。

## INPUT

### WEBINAR

**42**



### STUDY

**8**



### EXPERIENCE

**3**



## OUTPUT

### WORKSHOP

**15**



### BREAKOUT SESSION

**5**



### PITCH

**2**



# Activity Report 2023

## 活動ハイライト

社会課題やトレンドを起点にウェビナーやイベントを多数開催し、2023年は新たに対話型ワークショップ「DIALOG」や「OPEN HUB RADIO」がスタートしました。会員同士がインプットとアウトプットを共にしたこの1年。有識者と会員が一体となって未来に続くアイデアを生みだし、社会実装につなげていくまでの過程を、ハイライトでお届けします。

## PICK UP

有識者を招いた大規模イベントや、対話を通じた連続企画「DIALOG」など、業種・業界を越えて企業人が集まり、大きな反響を呼びました。

## EVENT

テーマごとに、勉強会や体験会などのインプットからアウトプットを出すワークショップまで、さまざまな形式でイベントを実施しています。

## WEBINAR

社会トレンドや最新技術を切り口に、さまざまなテーマで社会課題解決のヒントやビジネス創造のアイデア、DXに役立つ情報を発信しています。

## RADIO

イベントに込められた思い、有識者の本音、会員の声をテーマに週1回配信。トークセッションからコミュニティーの空気感も伝えます。



EVENT の開催情報  
詳細はこちらから



2023

OPEN  
HUB

B  
E  
S  
T

## PICK UP



### デジタル社会の先にある、 新たな生活価値

IT エバンジェリスト  
若宮正子

The Human Miracle 代表取締役・クリエイティブディレクター  
小橋賢児

NTT Com OPEN HUB 代表  
戸松正剛

「0歳も100歳も誰も取り残されることなく上機嫌で暮らせる世界」を実現するために、必要なものは何か——。テクノロジーの進歩によって、私たちの生活はより便利になりました。しかし、技術の進歩についていくためには、人間が目的と判断によって、それらをデザインしていくことが何よりも重要です。そのヒントを探るべく、「コンサマトリー」、「オフライン・オンライン」、「ハイパー・バーソナライゼーション」をキーワードにトークセッションを開催しました。「世界最高齢のITエバンジェリスト」である若宮正子氏と、大阪・関西万博のプロデュースも手掛ける元俳優でクリエイティブディレクターの小橋賢児氏を招き、OPEN HUB 代表の戸松正剛によるファシリテーターのもと、お二人が考える理想の社会についてお聞きしました。このトークセッションのレポートや、アーカイブ動画はOPEN HUBのウェブサイトから配信しています。デジタル社会の先にある、未来の暮らしや新しい体験価値に興味のある方、体験設計やデータの利活用について考えたい方はぜひご視聴ください。

### VOICE

改めてデジタルテクノロジーとの向き合い方を考えさせられました。体験設計に新しい付加価値を見いだすためのヒントも得られたように思います。  
(製造業/マネージャー/50代)

オンラインで参加ましたが、バーチャルプロダクションライブは臨場感がありました。若宮さん、小橋さんの掛け合いやキャリアの話題が興味深かったです。  
(小売業/主任/20代)

日々目まぐるしくテクノロジーが進化する中、楽しみながらITと関わる若宮さんの姿に、シニア層でも限界はなくチャレンジできるんだ、と勇気をもらいました。  
(金融・保険業/部長/40代)



### OPEN HUB 「BASE Pitch」 ～アイデアに思いを乗せて 社会の可能性を探求～

OPEN HUB Base 会員の皆さま



### 山口周と考える、 孤独を解決する ビジネスの可能性

独立研究者・著作家・パブリックスピーカー  
山口周

スタイルスジャパン カントーマネージャー  
秋元陸

「3人に1人は孤独を感じている」といわれる現代において、ウェルビーイングを阻害する要因として、「孤独」は世界的な問題となっています。一方で「ソロ活」のように孤独をポジティブに捉える価値観も一般化し、孤独は社会やライフスタイルを変化させる重要なファクターの1つといえそうです。そこでOPEN HUB Baseでは、孤独をテーマにした全5回のワークショップDIALOG「孤独」を開催。独立研究者であり、OPEN HUBのCATALYSTでもある山口周氏やスタイルスジャパンの秋元陸氏を迎え、さまざまな企業から参加者が集い、ビジネスアイデアの創出を目指しました。講演で山口氏は「新規事業を構想する上で、成長の再定義が必要」と解説。社会が十分な経済成長を遂げた今、「生きるに値する豊かな社会」を起点に考え、その中で覚えた違和感にビジネスチャンスがあると言います。その後、各チームが与えられたテーマに沿ってワークショップを実施。ヘルスケア領域で新規事業を担当する会員は、「自分がどのようないきに孤独を感じるか?」をヒントに、チームの会員たちと議論を交わし、さまざまなビジネスアイデアを生み出しました。

### VOICE

異なる会社に所属する同世代の会員の方々からビジネスアイデアを聞き、意見交換ができる貴重な機会でした。自分も社会課題を起点にビジネスアイデアを考えてみようともチベーションが上がりましたし、社内でプレゼンする前に考えを深めたり、相談できたりする場を見つけられたのが何よりも大きな収穫です。  
(サービス業/係長/30代)

オンラインからの参加でしたが、リアルタイムで質問や感想をコメントし、プレゼンターの方とやり取りできたのが有意義でした。次回はぜひ実際にOPEN HUB Parkでピッチイベントの雰囲気を体感し、ビジネスモデルを創出しようとしている同業種・異業種の方とも意見を交わしてみようと思います。  
(金融・保険業/主任/30代)

### VOICE

ワークショップでのやり取りや、発表のフィードバックではCATALYSTの方々から得られる気づきが多く、自身のアイデアをブラッシュアップできました。  
(メーカー/課長/50代)

山口周さんのイベントが行われると聞き参加しました。4日目は個性豊かな4名のCATALYSTがそれぞれ有意義なフィードバックをくださったことが印象的でした。  
(マスコミ/マネージャー/30代)

2日目の秋元陸さんからのインプットや会員間でのディスカッションを通して孤独は生活や人生のいろんな局面に潜んでいることを感じ、多角的な視点を養えました。  
(商社/部長/50代)

## EVENT



経済産業省 × 林野庁が語る  
カーボンニュートラルへの道筋

経済産業省 産業技術環境局 環境経済室 室長補佐  
折口直也

林野庁 森林利用課 森林保全推進官  
増山寿政

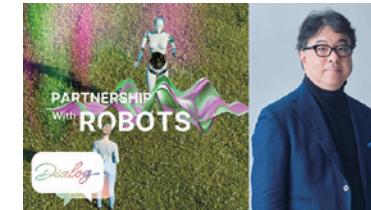


「メタバースイベント」ロボットが  
社会に浸透するためのアプローチを考える  
ディスカッション

明治大学 総合数理学部教授  
小松孝徳

パナソニックホールディングス ロボティクス推進室  
安藤 健

NTT Com Chief Catalyst / Media Community  
柴田知昭



人とロボットが共生する社会での  
ビジネスチャンスを考える  
ワークショップ

D4DR 代表取締役社長  
藤元 健太郎

2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする動きが世界中で加速しています。カーボンニュートラル実現のため、日本企業に求められる対応とは。経済産業省が「GXリーグ」を目指す未来、林野庁の森林 × 脱炭素の考え方から、脱炭素経営とビジネス創出の道筋を描きました。

社会課題解決に欠かせない存在となっているロボット。研究開発と認知科学、それぞれのアプローチからロボットに向き合う有識者 2 人を招き、メタバース空間でディスカッションを実施。オンラインゲーム感覚で議論を深め、ロボットやメタバース活用に向けた糸口を探りました。



CES2024 最速レポート &  
「社会可能性発見 AI」体験イベント

スタイラスジャパン カントリーマネージャー  
秋元 陸

日々急速に発展する生成 AI。ビジネスにおいてもさまざまな可能性が期待されています。Chat GPT をはじめとする生成 AI がビジネスにもたらす影響や今後の可能性を探し、業務活用と次世代ビジネスについてワークショップ形式で考えました。



Chat GPT 等の生成 AI を活用した  
ビジネスの未来を考えてみよう

NTT Com Catalyst / Business Producer  
野々上 帆香



宇宙から未来を変える！  
センシング技術で  
社会課題に挑む！

NTT Com イベーションセンター 宇宙関連事業PJ プロジェクトリーダー  
坂本貴之

世界各国で宇宙開発が行われる今、私たちにどんな未来が待っているのか。宇宙ビジネスは壮大に思えるかもしれません、その技術はビジネスや社会を変えるカギを握っています。各業界の課題解決に向けたセンシング技術の活用方法をナビゲートしました。

## WEBINAR



「ヒトもモノもロボットが運ぶ時代」の到来  
その課題と解決

アブトボッド 代表取締役 CEO  
坂元淳一

NTT Com ビジネスソリューション本部  
スマートワールドビジネス部 スマートモビリティ推進室 室長  
松田達樹



Skydio 社と共に！  
インフラ領域での最先端ドローンの活用とは？

Skydio APAC 社長  
Tom Moss

NTT Com プラットフォームサービス本部  
5G & IoT サービス部 ドローンサービス部門 担当課長  
木田陽子

NTT Com プラットフォームサービス本部  
5G & IoT サービス部 ドローンサービス部門 担当課長  
田仲秀行



自動車業界の皆さま必見！  
サイバーセキュリティガイドライン解説講座

Japan Automotive ISAC サポートセンター センター長  
中島一樹

NTT セキュリティ・ジャパン 営業本部 営業推進部 担当部長  
高橋秀行

サプライチェーンを狙ったサイバー攻撃が問題となっている自動車業界。企業としてどのようにセキュリティリスクに対処するべきなのか。サイバーセキュリティリスクの専門家を招いて、業界の定めるガイドラインに基づいた適切な対処法について分かりやすく解説しました。

## RADIO



ロボティクス有識者 2人が語る！  
ロボット研究の中心は「人」

パナソニックホールディングス ロボティクス推進室室長  
安藤 健

明治大学 総合数理学部教授  
小松孝徳



IOWN 特集①  
目指す未来に向けた NTT のゲームチェンジとは？

NTT Com プロデューアメント&IOWN 推進室  
羽石正則



「DIALOG」参加者が語る！  
一人ひとりの思いを起点に  
未来をつくるコミュニティーとは？

OPEN HUB Base 会員の皆さん

本音で語る：シリーズイベント「DIALOG」の参加者によるアフタートークを一挙配信。業種や業界の枠を超えて生まれる、共創コミュニティーならではの「つながり」の魅力について、OPEN HUB Base に熱意をもって参加してくれている会員の皆さんと語らいました。

# From OPEN HUB Base Office

## 事務局からの メッセージ

それぞれの持ち味を生かして OPEN HUB Base を運営するメンバー 6 名が会員の皆さんに向け、コミュニティにかける熱い思いとこれから の意気込みを語りました。

**鈴利理沙**  
トレンドを取り入れたテーマに、新しい気づきやコミュニケーションのきっかけとなる仕掛けを組み合わせた、イベントやウェビナーをプロデュース。

社会課題を解決するようなビジネスを会員の皆さんとつくり上げたい。その思いからスタートした OPEN HUB Base。2 年が経ち、私たちからの問い合わせに熱い思いを持った人たちが集まりいろいろなつながりが生まれてきました。

私個人としては、さまざまな企画を行う中で思考がマンネリ化しないように、新しい試みをしたいと考え、吉野オリイさんをはじめとする有識者の方々と「ロボットとの共生」をテーマに討論番組企画し、モデレーターにも挑戦しました。

次年度は会員の皆さんより密度を上げて、新しい空気を入れながら社会課題を解決するビジネス実現に向けた取り組みにしていきたいと思います。共創への成功の鍵は「思いの強さ」。強い気持ちを持ってコミュニティを運営しますので、引き続きよろしくお願いします。

**勝野加与**  
ビジネス共創チームに参画後、顧客目線のコンサルティングを軸に社会課題解決に取り組む。現在は OPEN HUB Base の企画・運営に従事。

「共創」とはどこから生まれるのか。実験場として始まった OPEN HUB ではさまざまなイベントを開催してきました。何か1つでも社会課題の解決のヒントにつなげてほしい。そんな私が伝えたいことがある一方で、会員の皆さんも誰かに伝えたい気

持ちを秘めていました。その熱量に圧倒され、私たちからの「一方通行」ではなく「双方向」で関係をつくり上げていくことの重要性を改めて感じています。「ロボティクス」をテーマに開催したシリーズイベントでは、会員の皆さんと連続してインプットとアウトプットを繰り返せるよう企画を設計しました。双方のコミュニケーションを増やすことがビジネスアイデアを生み出し、ビジネスモデルに昇華させる近道だと思ったためです。皆さん同士がより密に「つながる場」として、一緒に一步踏み出すための仕掛けづくりをこれからも考えていきます。ご期待ください。

**山根 奄**  
クリエイティブシンキングを駆使し、これまでの枠組みにとらわれない機能するコミュニケーションの設計を行う。

生成 AI やメタバース、人とロボットの共生、孤独など多岐にわたるテーマを題材に皆さんと一緒に議論しました。さまざまなバックグラウンドをお持ちの方々と関わり、改めてコミュニティの価値を強く実感しています。

1つの組織だと会社の常識、業界のスタンダード、これまでの定石——「そういうものだから」と何も疑わずに片付けてしまう。こうしたものから離れて、違う視座で現状を捉えるためには、違う価値観や知識を持った会員の皆さんと対話を重ね、新たな可能性をつくっていくことが、とても重要です。

2024 年度も皆さんと社会の新たな可能性を見つけるための企画を仕掛けていますので、よろしくお願いします。



**阿部 澄**  
OPEN HUB Base のイベント企画・運営を担当。社会課題解決を起点に事業共創を目指す、社内外のコミュニケーションハブを担う。

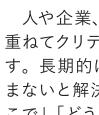
2023 年はコミュニティ会員の皆さんとたくさんのイベントを実施してきました。特にワークショップでは回を重ねるごとに顔なじみの方が増えています、社会課題や社会可能性にかける皆さんの情熱を感じる1年でした。印象に残っているのは「孤独」をテーマにしたイベント。企業の垣根なく、「社会課題に対して企業人として何が

できるか」の想いを形にするディスカッションはまさに OPEN HUB Base の醍醐味だと感じました。アイデアの種をどのように実現まで導くか。今年は皆さんとプロトタイプを生み出すことを目指して、熱い企画を考えていきたいと思います!



福嶋 麻由佳

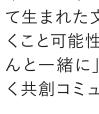
金融のお客さまに対する営業を本務とする傍ら、CATALYST として新規ビジネス創出やコミュニティ運営、ラジオパーソナリティを務める。



山根 奄

クリエイティブシンキングを駆使し、これまでの枠組みにとらわれない機能するコミュニケーションの設計を行う。

人や企業、社会が抱える課題はより複雑化し、重ねてクリエイタルな難題が増えている気がします。長期的に複数の企業が力を合わせて取り組まないと解決できないと感じつつも「誰と」「どこで」「どうやって」に悩んでいる声をたくさん聞いてきました。OPEN HUB Base にはそんな悩みを共有し、解決策を模索するツールがそろっていますことを知ってもらいたい。だからこそ、運営側の顔やコミュニティの雰囲気をより伝えていけるように OEPN HUB RADIO に挑戦しました。うれしいことに今ではお互いを名前で呼び合い、ご相談を気軽にいただけることも増え、まさに顔が見えるコミュニティになりました。1 年を通じ、いろいろな出会いの積み重ねによって生まれた文脈からイノベーションが生まれていくこと可能性を感じています。次の 1 年も「皆さんと一緒に」、つながりやアイデアが循環していく共創コミュニティにしていきたいです。



## Vision for the Next Year

### 自然と 共創が生まれる 土壌づくりに向けて

これからも世代や立場を超えて支持される唯一無二のコミュニティを目指して進化を続ける OPEN HUB Base。立ち上げ人の柴田知昭に 2024 年に向かう思いを聞きました。



柴田知昭

BASE 全体の運営設計、JOURNAL や PARK と連動したイベント企画を担当。年齢や役職に関係なく魅力を感じもらえるコミュニティづくりを目指す。

### 2023 →

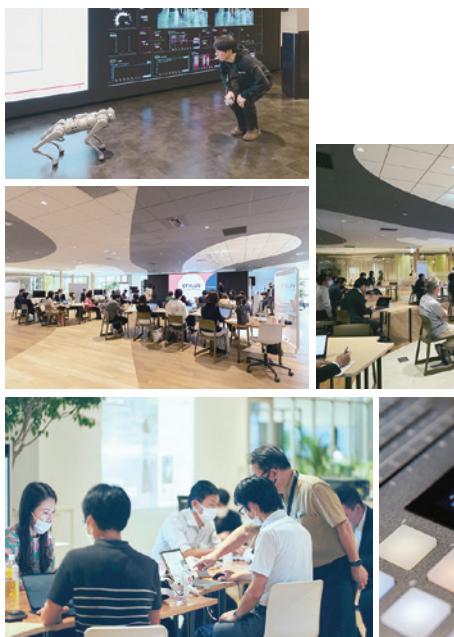


### 2024 →

する方が増え、コミュニティの価値が少しずつ拡大しているのではないかと感じています。

次の1年は、そんなコミュニティが果たす役割をもう一段階、アップデートするチャレンジを考えています。会員の方々がそれぞれ関心のあるテーマを持ち寄り、分科会を組成し、皆さんが中心になってそのテーマを深掘りしていくような、自然発生的にコトが生まれるコミュニティづくりを目指したいと思います。

「新しいアイデアを生み出すところから社会実装まで」。インプットとアウトプットを繰り返し、ビジネスの種をブラッシュアップしながら育て、世の中に出し、「人々の行動変容を起こす」ビジネスに高めていけるようなプラットフォームとしての OPEN HUB Base を皆さんと共につくっていきたいです。

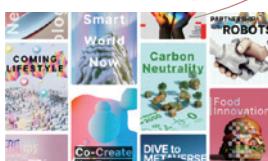


## OPEN HUB | for Smart World

# 未来をひらく 「コンセプトと社会実装」 の実験場

OPEN HUB は社会課題を起点にリアルとバーチャルを横断しながら、持続可能な社会である Smart World の実現に取り組んでいます。「知る」「つながる」「体験する」「生み出す」。OPEN HUB が提供するこれら4つの体験を通して、企業の皆さんと共に、新規ビジネスの創出や社会実装を目指しています。

### MEDIA



知る

最新トレンドや事例など  
ビジネスのインサイトをお届け

企業の DX 推進や、新規ビジネス創出に役立つ情報を展開。社会課題を起点にした特集テーマ「ISSUE」に合わせて、有識者対談や先進事例、実証実験のプロジェクトなど、最新トレンドと独自のインサイトを網羅した多様なコンテンツをお届けしています。

### BASE



つながる

アイデアの共有から始まる、  
越境的コミュニティー

企業に所属する方であれば、どなたでも参加可能な共創コミュニティー「OPEN HUB Base」。有識者による講演・ワークショップをはじめ、会員同士で情報・課題をシェアするイベントなど、会員の方だけが体験できる特別なコンテンツをご用意しています。

### PARK



体験する

リアルとバーチャルの垣根を超えた、  
新たなビジネス創出の場

分野を超えた仲間と出会い、自由なコミュニケーションから柔軟な発想を促す場、「OPEN HUB Park」。リアルならではの五感体験と、オンラインからアクセス可能なメタバース空間。2つの往来から深い思索へとダイブし、社会実装のヒントを探ります。

### PLAY



生み出す

事業創出から社会実装まで  
カタリストと取り組む共創プログラム

約 700 名超のカタリストと共に、会員の皆さんと事業コンセプトを創るオリジナルプログラム「PLAY」。リサーチ、仮説コンセプトの策定、ニーズ検証、プロジェクトデザインなど、事業創出に欠かせないフローをトータルでサポートするプログラムを提供しています。



OPEN HUB for Smart World  
詳細はこちから